

「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」 に係る事後検証充実化への取り組み

～心臓病・脳卒中などの循環器病症例のアンダートリアージ減少に向けて～

令和7年度第2回全国メディカルコントロール協議会連絡会
大阪府 堺地域メディカルコントロール協議会



堺市消防局
SAKAICITY FIREBUREAU

上野 文也

コア業務

プロトコルの策定

- ・応急・救急救命処置
- ・緊急度・重症度判断（トリアージ）
- ・病院選定基準
- ・搬送手段の選択

医師の指示、 指導・助言体制

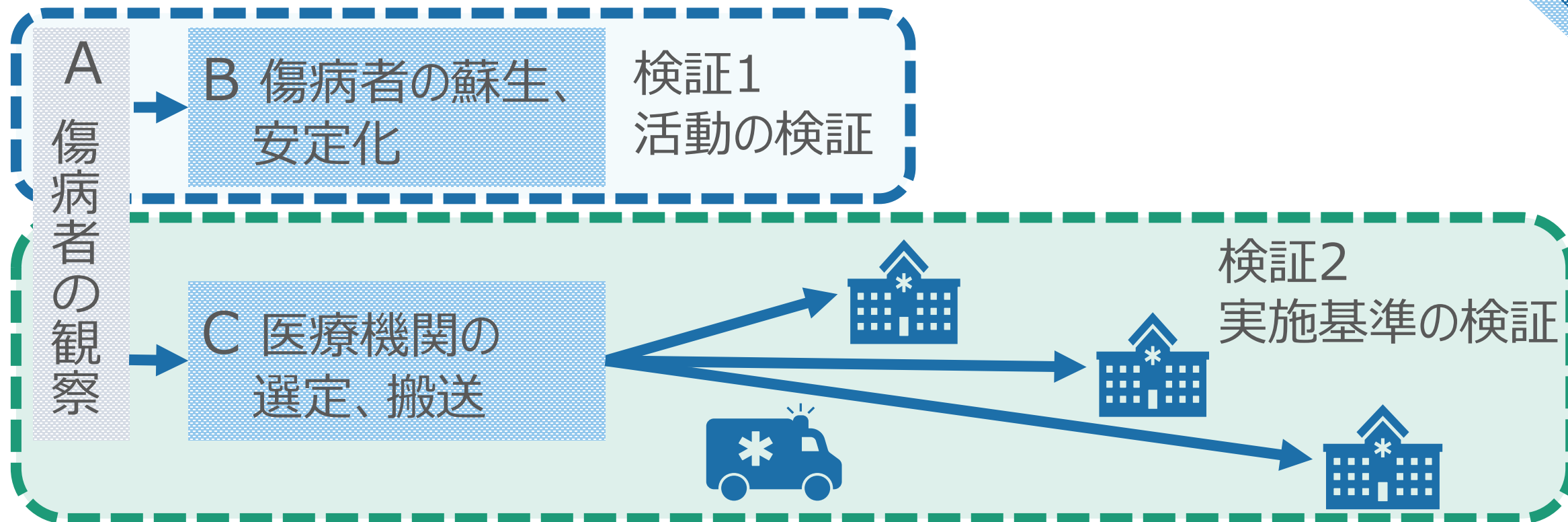
- ・特定行為の指示
- ・処置の指導・助言
- ・病院選定への助言

再教育体制の整備

- ・病院実習の実施
- ・救急救命士の再教育の実施
- ・マニュアルの策定
- ・トリアージ、病院選定基準の修正

事後検証の実施

- ・救急活動記録表の検討
- ・救急救命処置の効果検証
- ・症例検討会の実施
- ・搬送後の評価、分析(データ収集)



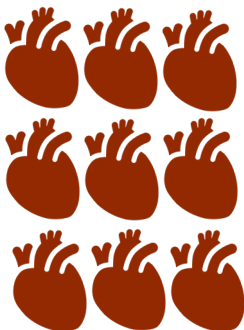
- ◆ 心臓病・脳卒中などの循環器病症例(特定病態)
- ✓ 救急隊の観察・判断の検証
- ✓ 医療機関選定における運用の検証

管内救急告示病院

29

循環器疾患対応病院

PCI等 : 9

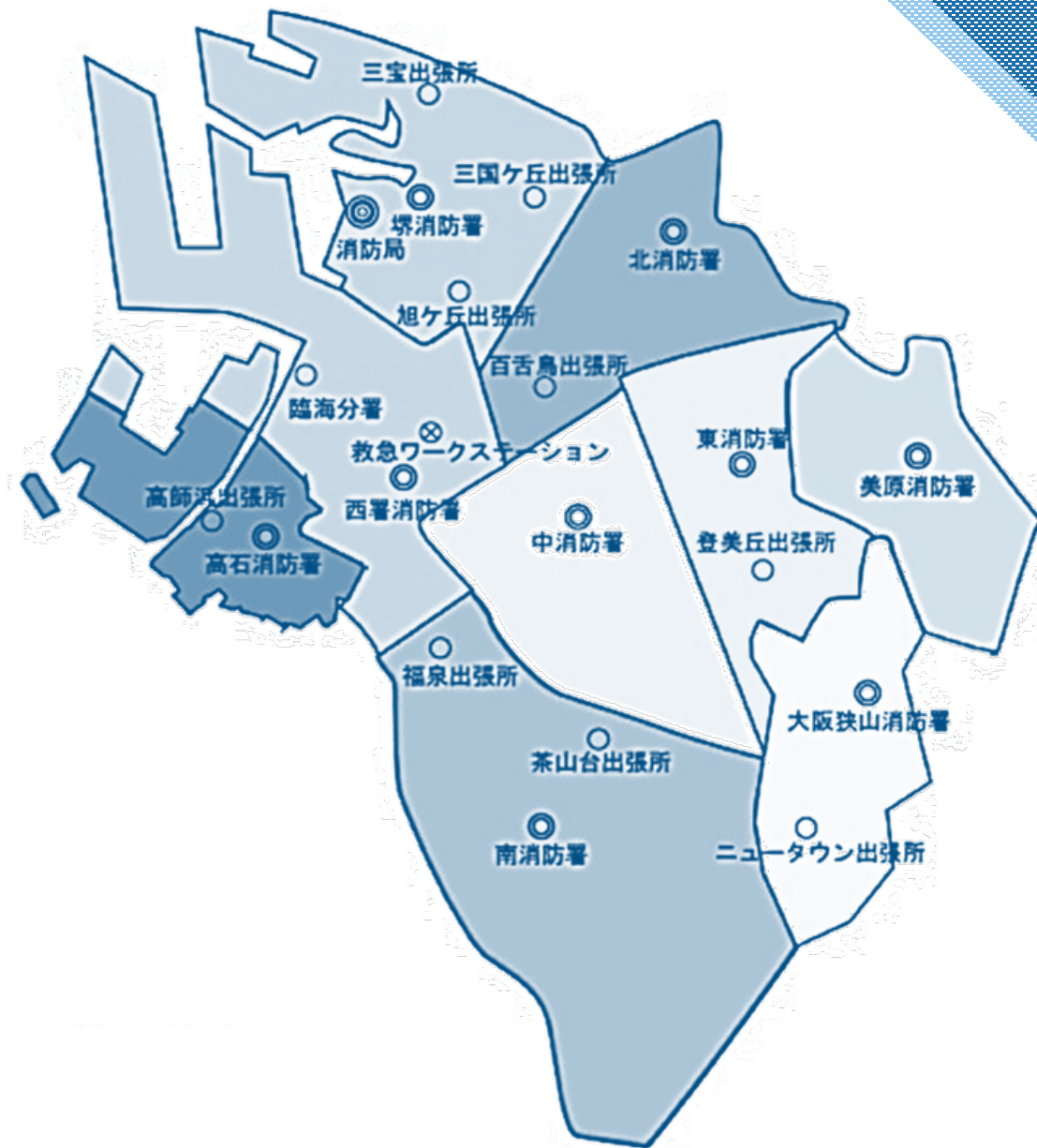


脳卒中対応病院

t-PA・脳外科手術 : 1

t-PA・脳外科手術

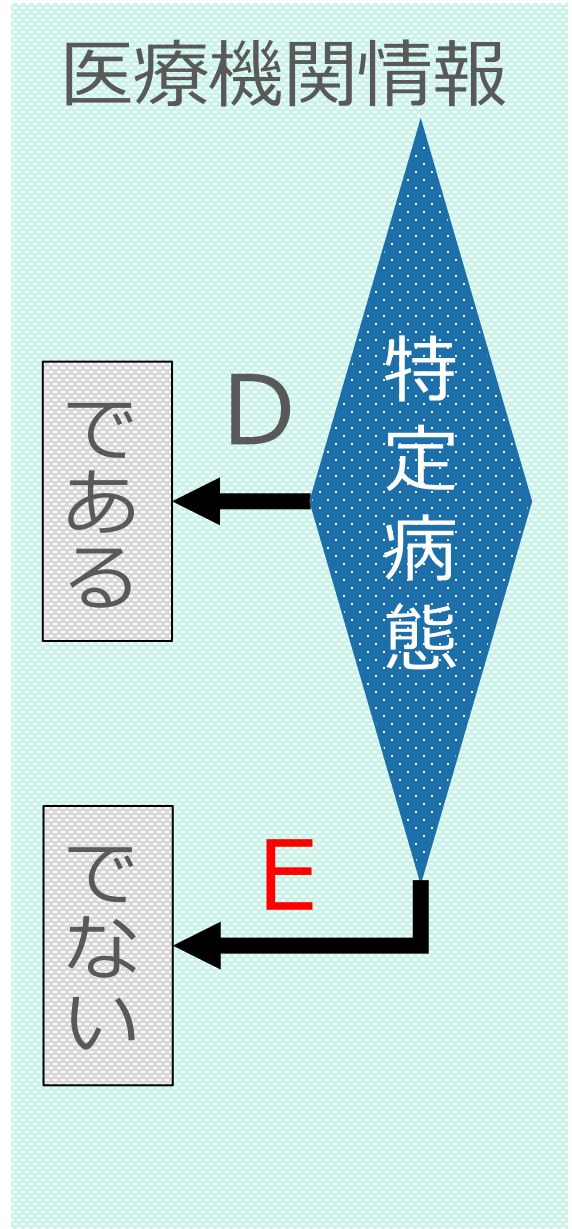
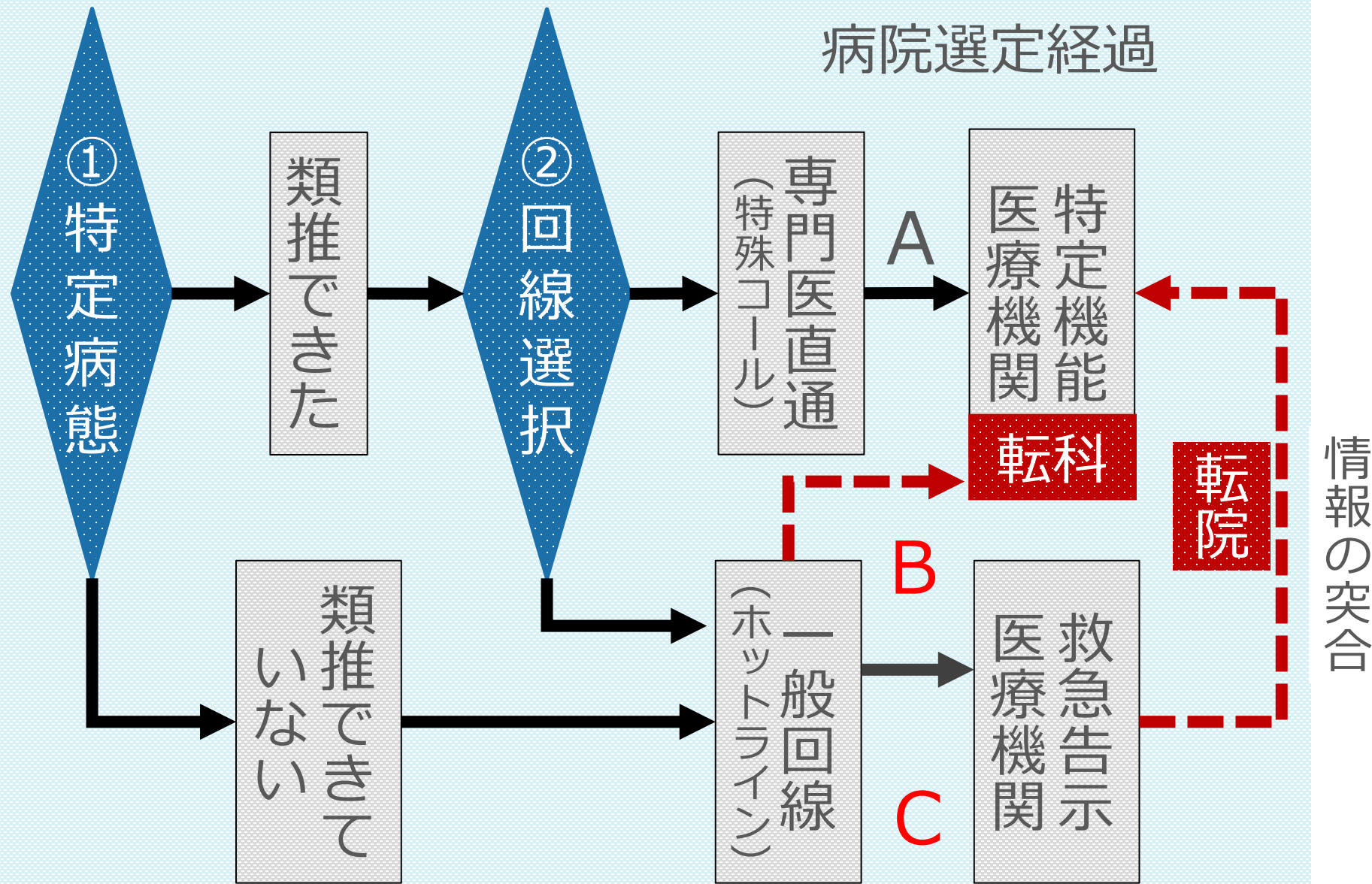
血栓回収 : 7



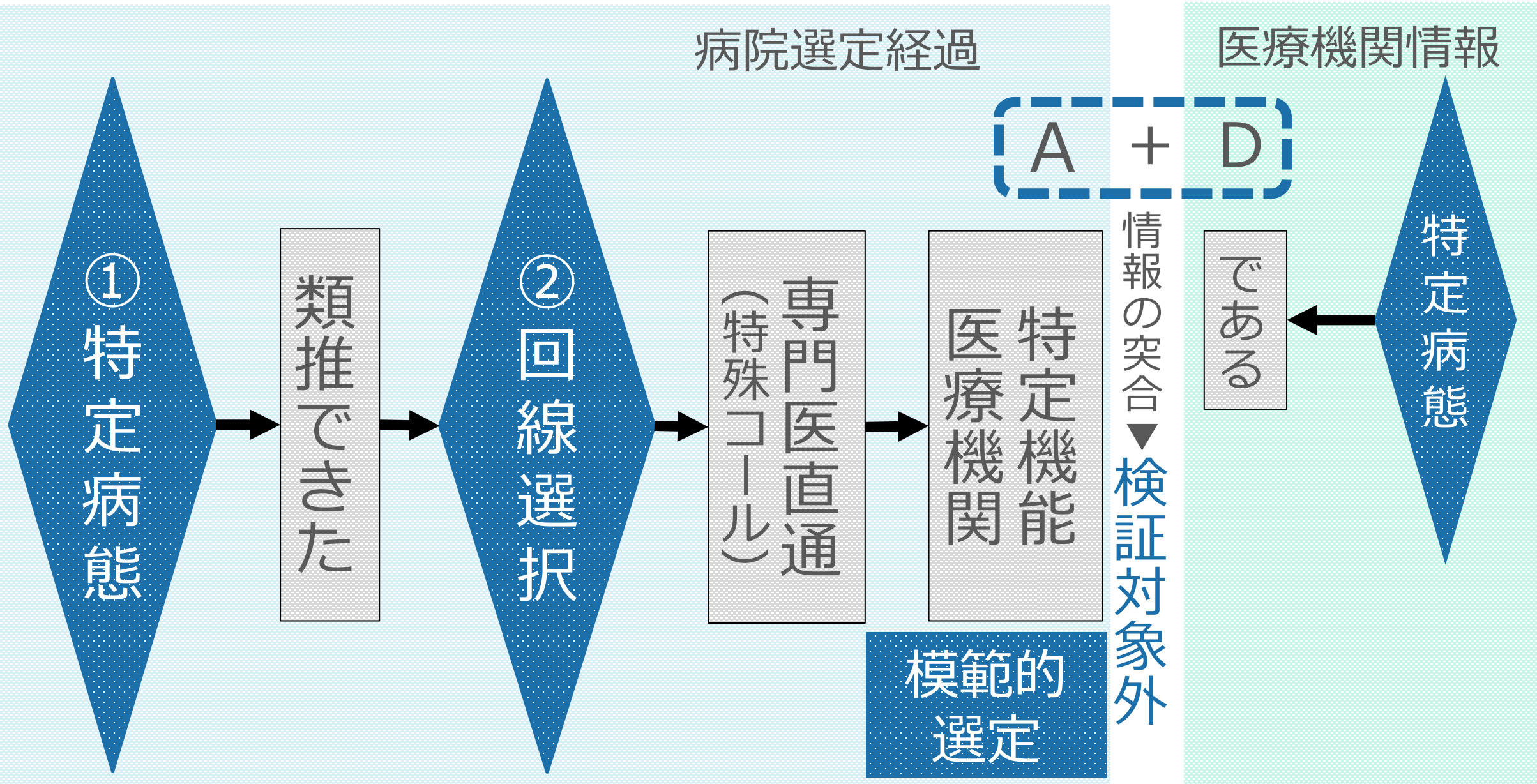
特定機能医療機関へ
搬送が可能

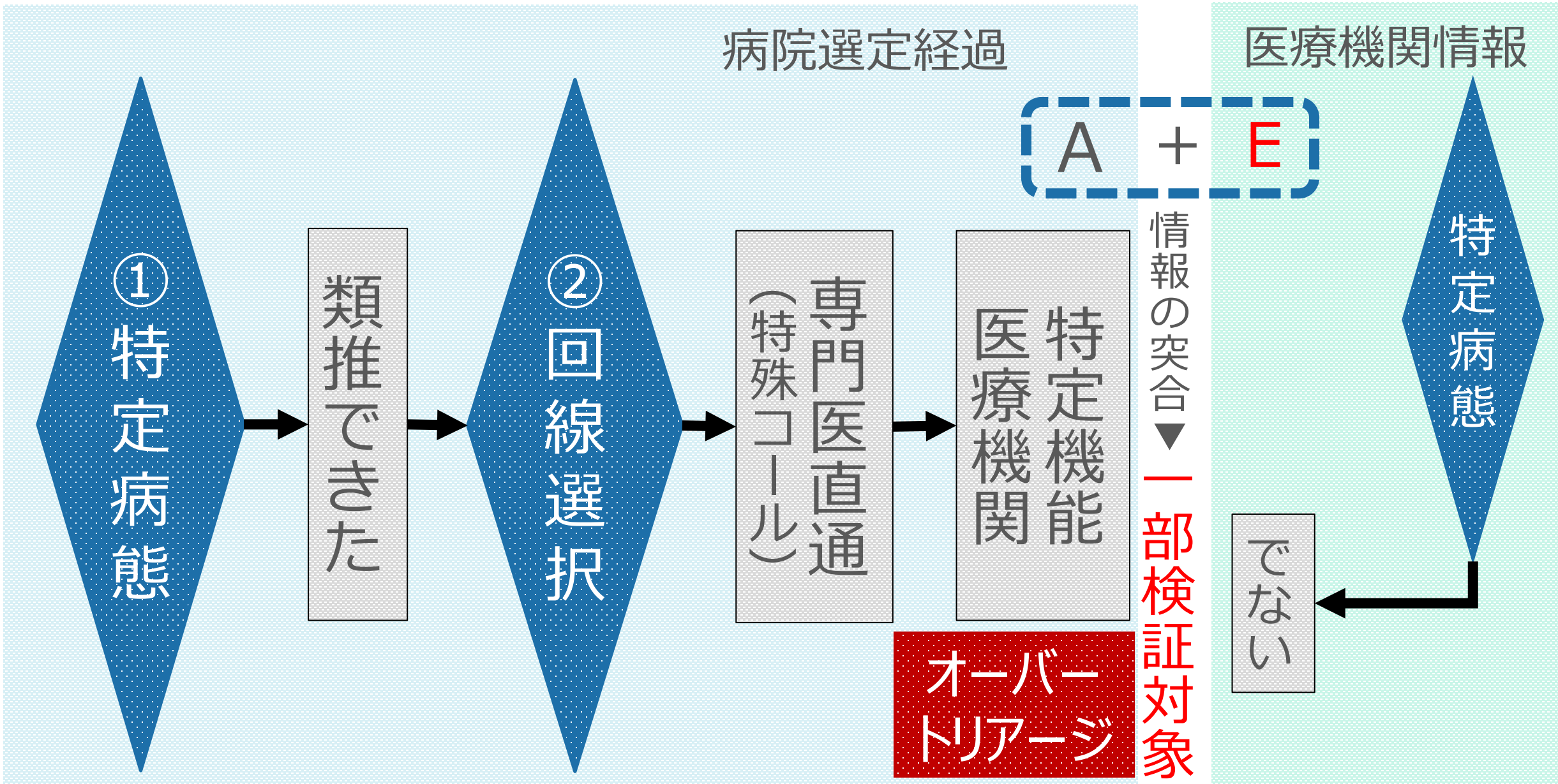


特定病態の実施基準検証

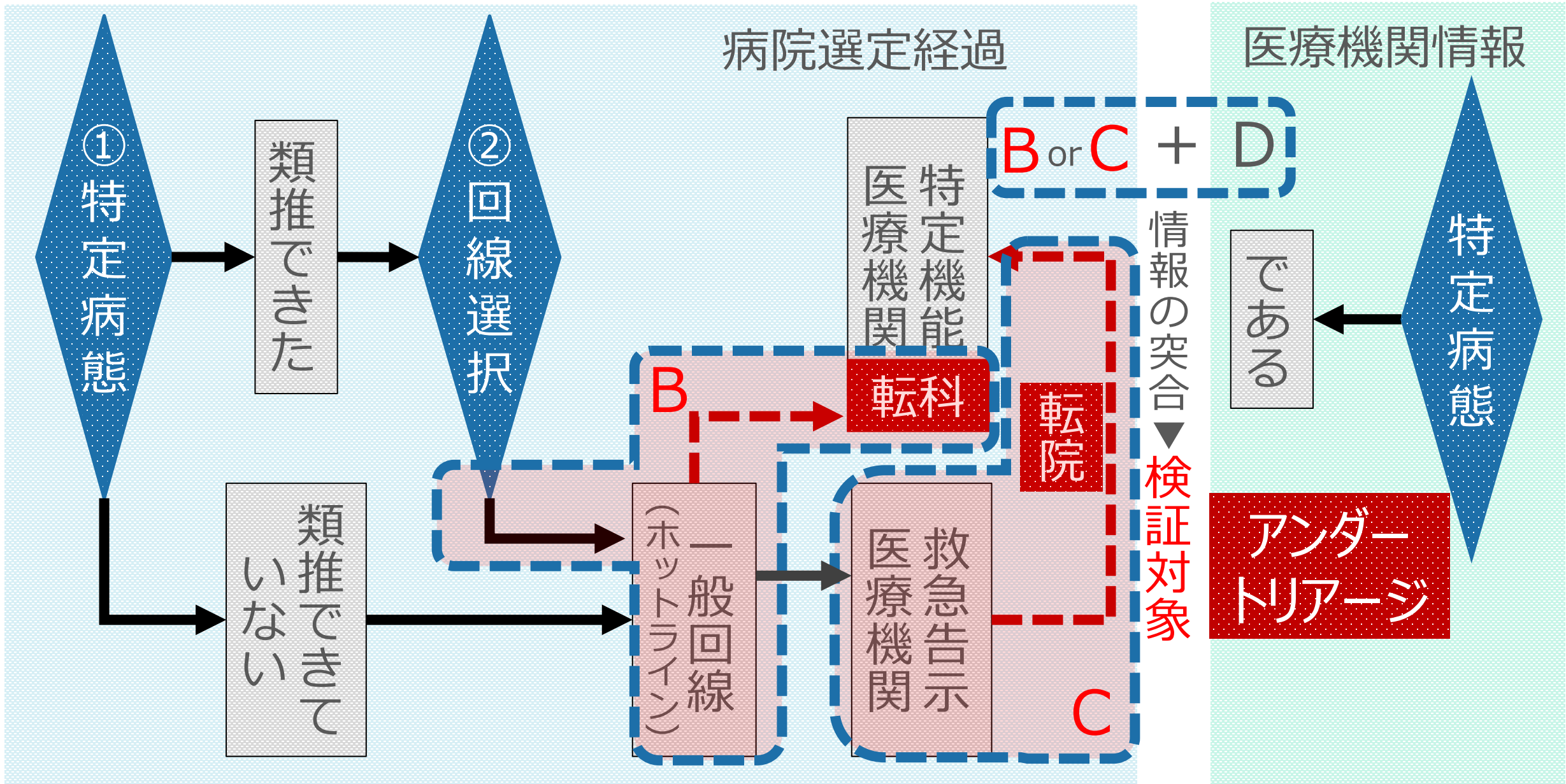


特定病態の実施基準検証（適切な病院選定経過）





特定病態の実施基準検証（アンダートリアージ）



- ◆ 紙ベース検証票による搬送時の即時フィードバックを廃止し、特定病態を類推するための観察・判断を検証会議後に重点的にフィードバック
- ◆ 特定病態を類推できた際は専門医直通(特殊コール)の回線を積極的に使用するよう繰り返し周知

◆ 検証対象症例の記録充実・保存

- ✓ ACS症例の心電図
- ✓ 経時的なバイタルサイン
- ✓ 主幹動脈閉塞を疑う6項目観察等の詳細な記録



救急隊の心電図



医療機関の心電図



◆ 病院前後の心電図を突合させることで心電図判読能力が向上

救急隊の観察記録



医療機関の診療記録



◆ 病院前の観察と診療記録を比較することで病態類推を是正

使用回線の周知徹底 (例:胸痛 + ST上昇)

◆胸痛

ACS：突然の数分以上続く胸痛
☒ あり ☐ なし ☐ 評価出来ず

境界不明瞭な胸痛/胸部違和感
☐ あり ☒ なし ☐ 評価出来ず

放散痛
☐ あり ☒ なし ☐ 評価出来ず

心電図上ST-T変化
☒ あり ☐ なし ☐ 評価出来ず

心電図上wideQRS
☐ あり ☒ なし ☐ 評価出来ず

致死性不整脈
☐ あり ☒ なし ☐ 評価出来ず

ACS等の既往
☐ あり ☒ なし ☐ 評価出来ず

緊急度判定

緊急度判定を行う場合は、下記のボタンをタップしてください。

緊急度：赤2
特定機能判定：
循環器疾患：P C I 等



詳細

堺市立総合医療センター

更新日時 2025/10/16 09:33

空床情報
男：○ 女：○ 小児：○

備考・注意
産婦人科かかりつけ要相談。外科二次かかりつけのみ要相談。

3次ホットライン：1867

2次ホットライン：1868

ハートコール（24時間）：1869

脳卒中コール（24時間）：9930

吐血血コール（平日9時～17時）

E C P R（24時間）：1867

専門医直通(特殊コール)

の回線を積極的に使用し
1分1秒でも早く根本的な
治療開始に繋げる



検証の効果(ACS症例)

		R7.4.1~9.30		初診時診断名		合計	
		ACSだった		ACSではなかった			
救急隊判断	ACSと疑った	202人 (a) 0.66 %		378人 (b) 1.23 %		580人 (a + b) 1.89 %	オーバー トリージ 内、ACS以外の 循環器疾患
	ACSと疑わなかった	87人 (c) 0.28 %		30,059人 (d) 97.83 %		30,146人 (c + d) 98.11 %	
	合計	289人 (a + c) 0.94 %		30,437人 (b + d) 99.06 %		30,726人 (a + b + c + d)	

アンダー
トリージ

内、病態類推
できたが一般
回線を使用

27人

オーバー
トリージ

内、ACS以外の
循環器疾患

145人

① 陽性適中率	34.83%	【a/(a+b)】
② 感度	69.90%	【a/(a+c)】
③ アンダートリージ率（偽陰性率）	30.10%	【c/(a+c)】

特定病態
アンダートリージ率
8.4% 低下
(昨年度比)

n = 全搬送人員

実施基準検証 充実化によって



- ◆特定病態のアンダートリアージが減少した
- ◆実施基準の妥当性が詳細に検証され改修要望に繋がった
- ◆救急隊への精緻なフィードバックが可能となった

取り組みの影響 今後の教育



- ◆オーバートリアージの増加で悪影響が出ないか注視する
- ◆継続的な救急隊員への教育で適切なトリアージ判断能力を維持・向上させる



堺市消防局
SAKAICITY FIREBUREAU